

会社概要

(2012 年2月29 日現在)

社名	ソーバル株式会社
設立	1983年1月
本社所在地	〒146-0092 東京都大田区下丸子 3-25-14 ソーバルビル
資本金	212百万円
事業内容	○エンジニアリング事業 ・ハードウェア・ソフトウェアのエンジニア 派遣 ・ハードウェア・ソフトウェアの受託開発 ○その他事業 ・RFID 事業、ネット関連事業
社員数	連結：880 名 単体：836 名
ホームページ アドレス	http://www.sobal.co.jp/

役員紹介

(2012 年5 月23 日現在)

取締役会	代表取締役社長	推津 順一	執行役員	最高執行役員	推津 敦
	取締役副社長	推津 敦		専務執行役員	河原 浩一
	専務取締役	河原 浩一			稲葉 勝巳
		稲葉 勝巳			宮澤 克行
	常勤監査役	古岡 秀勝			井上 一幸
	監査役 (公認会計士)	吉田 光一郎			川田 美則
監査役 (弁護士)	嶋田 雅弘	岩崎 恭治			
		植田 年青			
		西岡 建太			
		新居 仁 憲治			
		常務執行役員		古屋 繁之	
				兩瀬 賢一	
				大久保 仁美	
		執行役員		猪狩 安広	
				林 雅伸	
				伊藤 光男	
				杉山 義雄	

株式の概況

(2012 年4月1 日現在)

上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 市場
証券コード	2186
発行可能株式総数	14,800,000 株
発行済株式総数	4,345,000 株
単元株式数	100 株

株式手続き情報

(2012 年4月1 日現在)

定時株主総会	毎年 5 月
配当金受領株主 確定日	第2四半期：8 月 31 日 期末：2 月末日
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ(スタンダード) 市場
株主名簿管理人	三菱UFJ 信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内 1-4-5 三菱UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部
各種照会先	【諸届け】 住所・氏名のご変更、配当金受取り方法のご指定 などに関するお問合せ、各種手続きに必要な書類 のご請求はお取引の証券会社までご連絡下さい。 【特別口座で管理されている株式】 三菱UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂 7-10-11 ※お問合せ：三菱UFJ 信託銀行株式会社証券代 行部テレホンセンター（受付時間：土・日・祝祭 日を除く平日 9:00 ～ 17:00） 0120-232-711（東京）
公告方法	電子公告の方法により行います。但し、電子公告 によることが出来ない事故その他やむを得ない事由 が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。 【公告掲載 URL】 (http://www.sobal.co.jp/stockholder/)

お問合せ先

	ソーバル株式会社
	IR担当窓口
	〒146-0092 東京都大田区下丸子3-25-14ソーバルビル
	TEL:03-5482-1420 (受付時間 平日 9:00～16:30)
IRサイトアドレス： http://www.sobal.co.jp/ir/	



株主通信 2012

2011年3月1日 - 2012年2月29日（第30期）

社是

Company creed

技術で社会に貢献する
We contribute to the society
by providing technical services.

目次

Contents

- 4. 社長メッセージ
- 6. 事業概況
- 8. 第30期の総括
- 9. 今後の見通し
- 10. ソーバルの戦略
- 12. 業績ハイライト
- 13. 財務諸表
- 14. 株主優待のご紹介
- 15. 配当政策、株主情報
- 16. 会社 / 株式情報

社長メッセージ

Greetings



4

Greetings

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

企業にとって、最大の資源は人材です。

我々は、高い意識と技術をもつ人材が、充実した環境で働くことが価値あるテクノロジーを生み出す近道だと考えております。そのチャンスを拡大するため、ソーバルでは仕事とプライベートのバランスを大切にする社風を築きました。加えて、企業活動に関わるすべての方の満足が、企業価値の向上に繋がるとも考えております。

長年、人材開発と教育に投資を続け、高い定着率とともに IT 分野の技術革新とその蓄積を続けてまいりました。技術力と経験豊富な人材を

合わせ持つ、国内有数の独立系組み込みシステム開発企業と、お客様からも高いご評価をいただいております。

分野としては、コンシューマ向け製品から特殊分野で用いられる装置まで多岐に渡り、範囲をみても、ソフトウェアに留まらず、ハードウェアの研究・試作・量産設計の技術協力など、さまざまな開発を展開しております。昨今では、さらに技術の幅を広げ、業務システムや Web システム開発にも力を入れており、マルチレイヤーのシステム開発をワンストップ受注できる体制を確立いたしました。

これらの体制強化を行った結果、売上、利益ともに順調に回復しております。また、主体のエ

ンジニアリング事業をより充実させつつ、新規事業への投資を行い、ソーバルのさらなる発展に寄与する取り組みに力を入れております。

財務面に関しましても、無借金経営の強固な財務体質を維持しております。

1983 年創業以来の、「技術で社会に貢献する」というソーバルの理念は、今後も変わらず貫いていきます。社会との結びつきとして、技術だけではなく様々なボランティア活動など、社会に愛され、貢献できる姿を描き、成長してまいります。

ソーバルはすべてのステークホルダーの皆様から、より一層の信頼の獲得と、期待にこたえるべく、全社一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とより一層のご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2012年5月
代表取締役社長

推津 順一

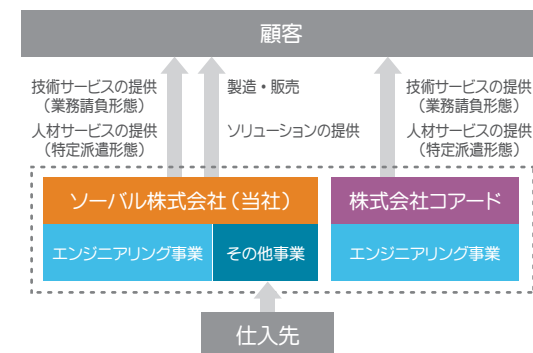
5

Greetings

ソーバルグループの事業

当社グループは、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの開発及び評価に関するサービスを、当社従業員の特派派遣及び業務請負により提供するエンジニアリング事業を主な事業として展開しております。

今期より株式会社コアードを連結子会社にいたしました。これにより連結決算となります。



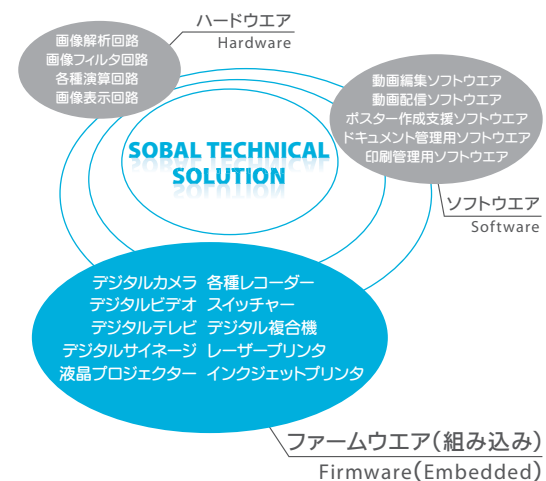
▲事業系統図

エンジニアリング事業

主として、デジタル製品メーカーに対し、ファームウェア、ソフトウェア並びにハードウェアの「開発」を支援するサービスを提供しております。同時に、開発中の試作品の不具合や仕様誤りをプログラムレベルで評価・検証したり、生産前の製品の品質評価をする「評価」サービスも併せて提供しております。また、デジタル製品メーカー以外にも、精密機器や電子機器メーカーに対して、同様の技術支援サービスの提供を行っております。ソフトウェアでは、デジタル製品のアプリケーションツールやドライバの開発のみならず、Web アプリケーショ

ンの開発にも携わっております。ハードウェアでは、LSI や DSP の設計・開発、周辺回路設計、さらに構造設計や機構設計の研究・試作・量産設計を開発範囲としております。

併せて、組み込みソフト開発において培われた技術基盤により、製品開発コスト管理支援ソリューション、組み込みシステム設計支援ソリューション、SoC 設計支援ソリューション、ソフトウェア製品化支援ソリューション、基板装置試作・量産支援ソリューション等の各種コンサルテーションを提供しております。



▲事業内容と実績例

その他事業 (RFID事業、ネット関連事業)

その他事業として現在、「RFID」製品の開発、製造、販売及びネット関連事業を展開しております。「RFID」は、電波及び電磁誘導方式を用いた非接触型の自動認識技術であり、電子マネーや物流・在庫管理等の分野において利用されております。

事業の紹介と第30期のセグメント別業績概要

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業は、お客様の職場にてエンジニアが役務を提供する「特定派遣」と、お客様からのご依頼を受け、ソーバル社内でシステムの設計開発を行う「業務請負」があります。

第30期概要

エンジニアリング事業の売上高割合は全体の98.1%を占めており、内訳は特定派遣が63.5%、業務請負が34.6%となっております。「特定派遣」と「業務請負」の二つの業務形態があることが、社員のスキルアップにつながっています。「特定派遣」においては、最先端の技術に触れることによるスキルアップ、「業務請負」においては、進捗管理や利益管理などプロジェクト運営にかかわるスキルアップが可能です。

バランスのとれた社員育成を継続的に行うことで、質の高いサービスの提供を行ってまいります。

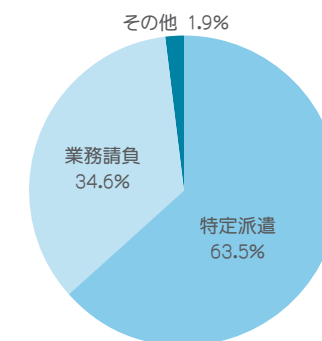
その他事業 (RFID事業、ネット関連事業)

その他事業として、ソーバル社内の「知」から生まれたRFIDソリューションビジネスに取り組んでおります。

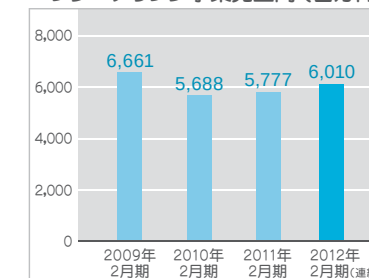
第30期概要

当社には個々に磨きあげられた専門技術を有したエンジニア（無線通信の技術者や、回路設計の技術者など）が数多く在籍しております。当社に入社する前には、ロケットを開発していたようなエンジニアも在籍しております。その結果、いろいろな側面から顧客の要望に応えることができ、幅広い受注が可能となっております。また、従来のエンジニアリング事業では得られない、新しい顧客とのつながりをもたらしています。今後も、新規顧客の開拓を牽引していきます。

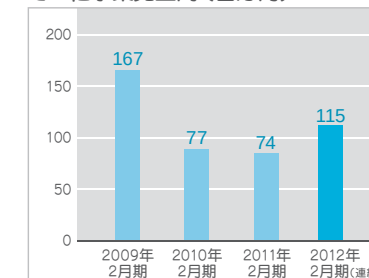
2012年2月期(第30期)
売上高内訳(6,126百万円)



エンジニアリング事業売上高(百万円)



その他事業売上高(百万円)



第30期の総括

Summary of the 30th term

当連結会計年度におけるわが国の経済は、2011年3月に発生した東日本大震災による大規模かつ広範囲なインフラ被害の発生で、被災地域を中心としたサプライチェーンの大規模な混乱が生じ、経済活動は大きく停滞しましたが、その後景気は緩やかに回復の兆しを見せました。しかしながら、長期化する円高やエネルギー政策の不透明感等、今後も景気の下振れリスクが残る状況となっております。また、世界経済におきましても、欧州の政府債務危機の深刻化等の影響により景気減速の懸念が顕在化しており、新興国・資源国の成長率の回復が一部見込まれてはいるものの、依然として厳しい状況にあります。

このような経済環境の中、当社グループではグループ間での人材及び案件情報の共有、効率的なアサインによる生産性の向上を図ることを最重要の課題として取り組んでまいりました。

エンジニアリング事業においては、主要顧客であるデジタル製品メーカーからの技術者派遣ニーズは震災後の需要減が予測されたものの、実態としては殆ど影響が無く、懸念された計画停電の実施やサマタイム導入等の影響も軽微でした。また、業務系及び Web 系のアプリケーション開発案件に対しても、引き続き積極的な営業活動を展開し、着実に新規案件を獲得してまいりました。これにより、エンジニアリング事業の売上高は 6,010 百万円となりました。

一方、その他事業における RFID 事業に関しましては、電波法再編に関する政治混乱の影響を受け、一部お客様における買い控えが見受けられる等業界環境が厳しく推移しておりましたが、当社グループ

の高い技術力を全面的に押し出す営業活動を実施してまいりました。また、ネット関連事業に関しましては、要素技術の開発を積極的に推進し、今後の事業展開に向け競争力を高めております。その結果、その他事業の売上高は 115 百万円となりました。

なお、2011 年3月1日付で、株式会社コアードを子会社化しております。

以上により、売上高は 6,126 百万円、営業利益は 353 百万円、経常利益は 357 百万円、当期純利益は 182 百万円となりました。

	2010 年 2 月期 (第 28 期)	2011 年 2 月期 (第 29 期)	2012 年 2 月期 (第 30 期) (連結)
売上高 (百万円)	5,766	5,852	6,126
営業利益 (百万円)	16	227	353
経常利益 (百万円)	19	239	357
当期純利益又は 当期純損失(△) (百万円)	△19	124	182
総資産 (百万円)	2,221	2,472	2,624
純資産 (百万円)	1,778	1,887	2,026
一株当たり当期純利益又は 当期純損失(△) (円)	△8.89	57.42	41.94
一株当たり 純資産(円)	818.83	869.25	466.49
一株当たり 配当金(円)	10.00	17.00	18.00

(注) 2011年11月1日付で当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。一株当たり情報に関しては、過去に遡って株式分割等に伴う調整計算は行っておりません。

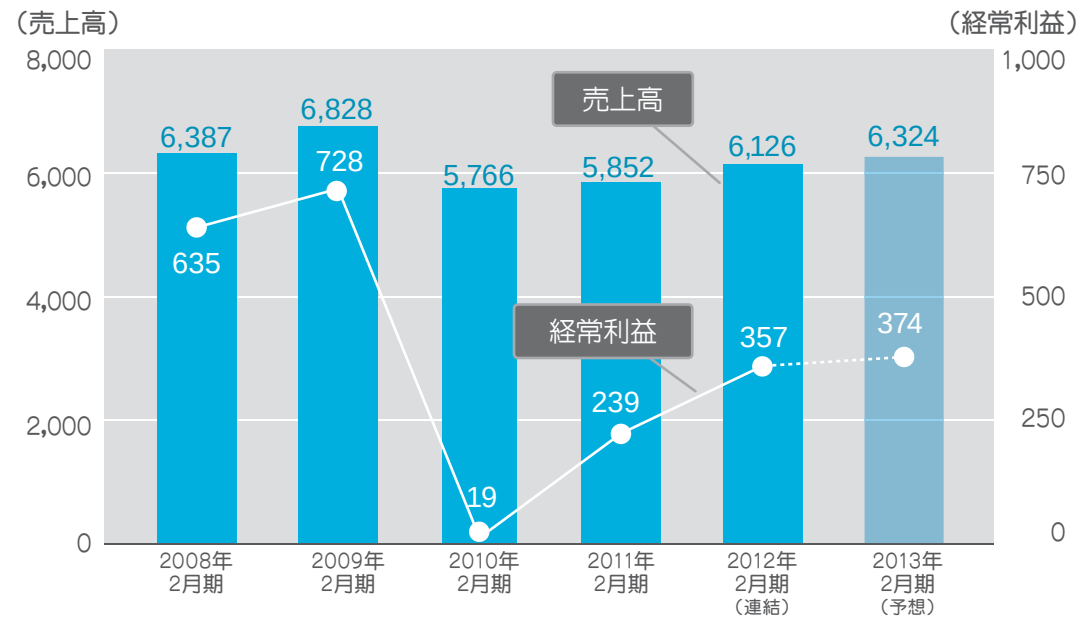
今後の見通し

Future Prospects

第31期の展望

今後の経済の見通しは、当社グループの主要顧客であるデジタル製品業界においては、回復基調にあり、当社グループが得意とする組み込み開発のニーズも堅調に推移していくものと思われます。一方業務系開発や Web 開発を含む IT 投資に関しましては、一部の企業に関しては回復しているものの、いまだ多くの企業が慎重な姿勢をとっており、先行は不透明な状況であります。

このような環境の中、当社グループとしましては発生したニーズに的確に応えるべく、技術者の技術・知識の向上を推進するとともに、より一層の営業活動を行い受注獲得を目指してまいります。一方、そのための人材育成及び優秀な社員の採用等に関する先行投資も必要不可欠となっております。以上により、2013 年 2 月期の通期の業績予想は、売上高 6,324 百万円、営業利益 370 百万円、経常利益 374 百万円、当期純利益 205 百万円を見込んでおります。



▲売上高、経常利益の推移予想（百万円）

中長期的な会社の経営戦略

当社グループが主とするデジタル製品の組み込みソフトウェア業界は、最悪期を脱し、持ち直しの兆しが見受けられます。しかしながら、デジタル製品の売上は、新興国経済に依存しており、国内での需要の停滞感は一掃されるまでには至っておりません。従いまして、今後も引き続き当社グループ顧客におきましては、パートナー会社の選別が進むものと思われまます。

このような状況の中、当社グループはより顧客に選ばれる企業となるべく、一層企業価値を高めていく必要があります。そのためには、さらなる高い技術力と顧客満足度の向上、また、当社グループを取巻く環境の変化に瞬時に対応できるよう、社員教育体制の強化、業務請負形態における作業の効率化を行ってまいります。

また、デジタル製品以外の新規分野の参入に関しても注力し、医療機器分野や Web 関連開発の案件獲得及び新規顧客獲得に努めてまいります。

Point 1 人材育成・優秀人材採用の継続投資

Point 2 販路拡大、人材獲得に向けた M&A の実施

Point 3 新規事業の積極推進と競争力強化

新規事業の取り組みについて

技術の蓄積や自社ブランドの確立を目指し、新規事業へ取り組んでおります。

今回はお客様からも好評をいただいている、新規事業の S4 Apps、読書ログをご紹介します。

S4 Apps <http://www.sobal.co.jp/s4/>

S4 Apps では iPhone、iPad、Andoroid 向けのアプリケーションを開発しております。音楽やエンターテインメントなど多種に富んだアプリケーション開発を今後も進めてまいります。



より詳細な情報をご希望の方は、S4 Apps のサイトをご覧ください。 [S4 Apps](#) [検索](#)

読書ログ <http://www.dokusho-log.com/>

読書ログはどなたでも無料で利用できる Web サイトです。書籍管理や本を通じて広がるコミュニティを支援すべく日々開発に取り組んでおります。



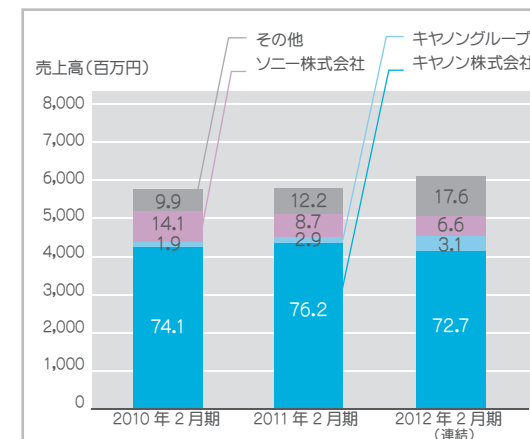
より詳細な情報をご希望の方は、読書ログのサイトをご覧ください。 [読書ログ](#) [検索](#)

取引先の状況について

当連結会計年度のキャノングループ全体への売上高は当社グループ売上高の 75.8%を占めており、経営の健全性確保の観点からも同社グループへの依存度をより低減させることが、今後の安定した経営を進める上で重要な経営課題であると認識しております。

この経営課題への取り組みとして、新規優良取引先の開拓は必須であり、積極的に営業活動を推し進めております。今後も引き続き、新規優良取引先の開拓を推し進めてまいります。従来からのデジタル製品メーカーに加え、情報通信分野、成長が期待される医療機器等の分野にも注力し、営業推進を行ってまいります。また、Web 系のシステム開発にも取り組んでまいり所存です。

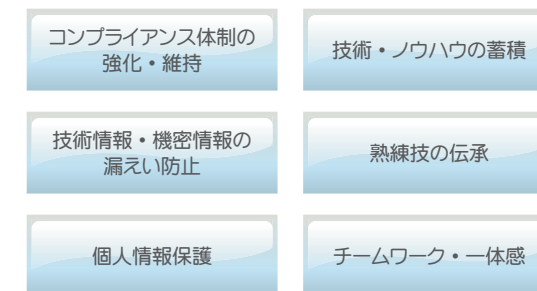
▼取引先別比率(%)



お客様の信頼を得るために

ソーバルでは、自社の技術力維持や雇用の安定のため、業務を担当するエンジニアの大半がソーバルの正社員です。

技術の蓄積、コンプライアンス教育、漏えい防止のための安全対策など、長期的な視野での教育も可能となり、お客様から高い安心と信頼をえられております。

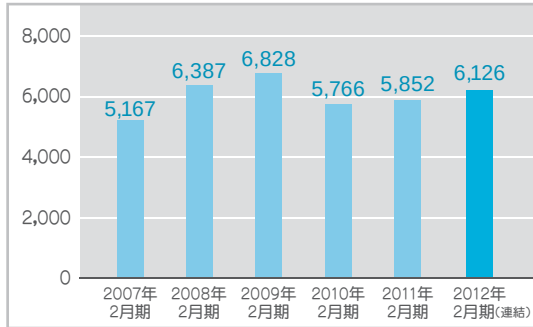


高い安心感と信頼感

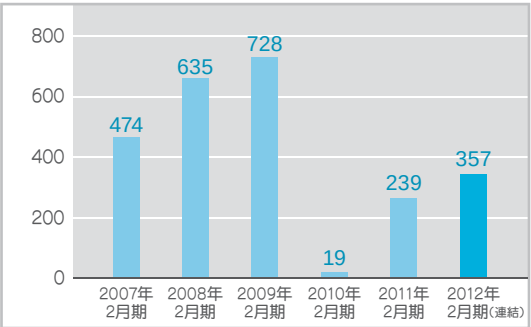
特定労働者派遣とは

「特定労働者派遣」とは、常用雇用労働者（正社員）だけを労働者派遣の対象とする労働者派遣形態です。

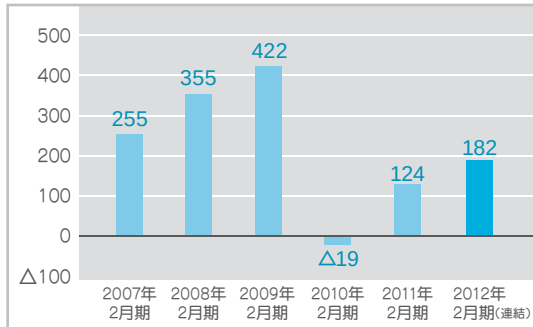
売上高（百万円）



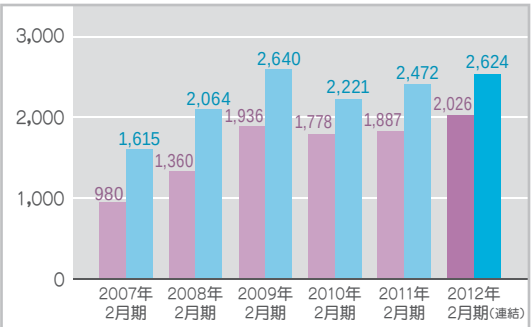
経常利益（百万円）



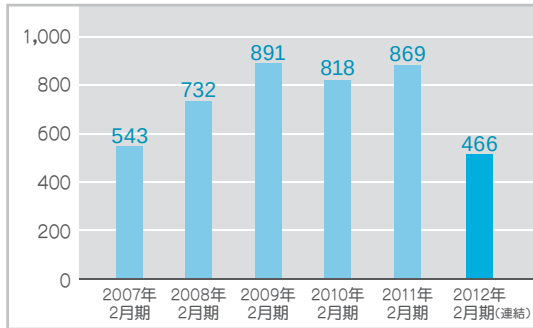
当期純利益又は当期純損失(△)（百万円）



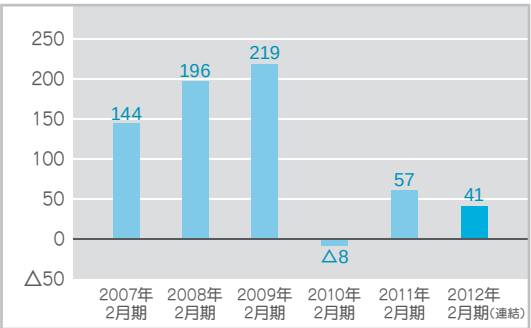
純資産／総資産（百万円）



一株当たり純資産（円）



一株当たり当期純利益又は当期純損失(△)（円）



(注) 2011年11月1日付で、当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。一株当たり情報に関しては、過去に遡って株式分割等に伴う調整計算は行っておりません。

損益計算書

（単位：百万円）

科目	2011年 2月期	2012年 2月期(連結)
売上高	5,852	6,126
売上原価	4,829	4,943
売上総利益	1,022	1,182
販売費及び一般管理費	795	829
営業利益	227	353
営業外収益	12	4
営業外費用	0	0
経常利益	239	357
特別利益	—	3
特別損失	5	25
税金等調整前当期純利益	233	335
法人税、住民税及び事業税	125	135
法人税等調整額	△ 15	18
当期純利益	124	182

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	2011年 2月期	2012年 2月期(連結)
営業活動によるキャッシュ・フロー	344	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 16	29
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	△ 43
現金及び現金同等物の増減額	312	101
現金及び現金同等物の期首残高	903	1,216
現金及び現金同等物の期末残高	1,216	1,318

貸借対照表

（単位：百万円）

科目	2011年 2月期	2012年 2月期(連結)
(資産の部)		
流動資産	2,208	2,369
固定資産	264	255
資産合計	2,472	2,624
(負債の部)		
流動負債	517	467
固定負債	67	130
負債合計	584	597
(純資産の部)		
資本金	212	212
資本剰余金	117	117
利益剰余金	1,558	1,696
自己株式	△ 0	△ 0
株主資本合計	1,887	2,026
純資産合計	1,887	2,026
負債純資産合計	2,472	2,624

株主優待のご紹介

Stockholder special benefit plan

2012年2月期より株主優待制度を開始いたしました

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするべく、当社株式への投資魅力を高め流動性を確保するとともに、東日本大震災により被災された皆様への支援を目的としております。

株主優待制度の内容

8月末現在で1単元(100株)以上の株式を保有する株主様に対し、東北の名産品やお米をお選びいただき、優待ギフトとして贈呈いたしました。指定いただかなかった株主様につきましては、1口1,000円を義援金として、日本赤十字社に寄付させていただきました。

4つの中から
選択

1 名産品

醤油とポン酢(2本)セット



2 お米

無農薬米 コシヒカリ(2kg)



3 おまかせ

りんごジュース(10本)



4 義援金

日本赤十字社に
305,000円を
寄付いたしました。



2013年2月期も同様な企画で株主優待を実施する予定であります。

配当政策、株主情報

Dividend policy and stockholder information

配当政策

総分配性向(%)

総還元額(配当金 + 自社株買い) ÷ 総利益

一株当たり配当金の推移

年次	一株当たり配当金(円)
2009年2月期	54.00
2010年2月期	10.00
2011年2月期	17.00
2012年2月期(連結)	18.00
2013年2月期(予想)	14.00

▲年間一株当たり配当金推移グラフ(円)

(基準日)	一株当たり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2013年2月期(予想)	7円00銭	7円00銭	14円00銭	29.6%
2012年2月期(連結)	10円00銭	8円00銭	18円00銭	31.0%
2011年2月期	7円00銭	10円00銭	17円00銭	29.6%
2010年2月期	10円00銭	—	10円00銭	—%
2009年2月期	—	54円00銭	54円00銭	27.7%

(注) 2011年11月1日付で当社普通株式1株につき、2株の分割を行っております。一株当たり情報に関しては、過去に遡って株式分割等に伴う調整計算は行っておりません。

株主情報

株式の状況

(2012年2月29日現在)

発行可能株式総数	14,800,000株
発行済株式総数	4,345,000株
株主数	1,586名

株式分布状況

(2012年2月29日現在)

◇所有者別情報

合計* 4,344,100株

政府及び地方公共団体	0.00%
金融機関	0.14%
金融商品取引業者	0.54%
その他の法人	0.61%
外国法人等個人以外	0.00%
外国法人等個人	0.00%
個人その他	98.64%
自己名義株式	0.07%

◇所有株式数別情報

合計 1,586名

10単元未満	82.69%
50単元未満	16.02%
100単元未満	0.54%
500単元未満	0.34%
1,000単元未満	0.07%
1,000単元以上	0.34%

※単元未満株式数を除いて集計しております。

大株主

(2012年2月29日現在)

氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
川下 奈々	998,720	22.98
推津 敦	998,720	22.98
ソーバル従業員持株会	678,400	15.61
推津 順一	393,440	9.05
推津 幸子	353,120	8.12
田辺 博文	55,000	1.26
新田 顕祐	40,000	0.92
田辺 円香	20,100	0.46
福島 則光	20,000	0.46
小島 弘行	12,400	0.28
計	3,569,900	82.16

14

Stockholder special benefit plan

15

Dividend policy and stockholder information